

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			大学全体		
	事 務 職 員		92 人 (92)	24 人 (24)	116 人 (116)					
	技 術 職 員		12 人 (12)	5 人 (5)	17 人 (17)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 人 (4)	3 人 (3)	7 人 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 人 (0)	0 人 (0)	0 人 (0)					
計		108 人 (108)	32 人 (32)	140 人 (140)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体		
	校 舎 敷 地	133,043㎡	0 ㎡	0 ㎡	133,043㎡					
	運 動 場 用 地	139,196㎡	0 ㎡	0 ㎡	139,196㎡					
	小 計	272,239㎡	0 ㎡	0 ㎡	272,239㎡					
	そ の 他	2,382㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,382㎡					
合 計	274,621㎡	0 ㎡	0 ㎡	274,621㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			大学全体		
		70,292.16㎡ (70,292.16㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	70,292.16㎡ (70,292.16㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	81室	29室	119室	7室 (補助職員 0人)	7室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			大学全体		
		医療科学研究科 看護学専攻			13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標本	大学全体		
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]	点
		冊	種	種	点	点	点			
医療科学研究科 看護学専攻		30,970[879] (30,069[854])	166[5] (162[5])	1,389[1,374] (1,348[1,334])	1,628 (1,581)	790 (790)	55 (55)			
計		30,970[879] (30,069[854])	166[5] (162[5])	1,389[1,374] (1,348[1,334])	1,628 (1,581)	790 (790)	55 (55)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数			大学全体		
		4,893㎡	731		199,250					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
		4,928.19㎡	千住キャンパス：柔道場、トレーニングルーム / 東京西キャンパス：テニスコート、格技場、剣道場 / 山梨市キャンパス：柔道場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「教員1人当り研究費等」について、研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当り研究費等		383千円	383千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	680千円	10千円	10千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	5,500千円	400千円	100千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,150千円	840千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大学等の名称	帝京科学大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	生命環境学部									※平成29年度入学定員増(20人)
	生命科学科	4	100	3年次10	400	学士(理学)	1.02	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	自然環境学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	0.94	平成22年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	7ニマルサイエンス学科	4	290	3年次5	1170	学士(理学)	1.07	平成14年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	医療科学部						0.96			
	理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.03	平成19年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	0.79	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	柔道整復学科	4	30	—	120	学士(柔道整復)	0.92	平成21年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	東京理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.07	平成22年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	東京柔道整復学科	4	90	—	360	学士(柔道整復)	1.07	平成22年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	看護学科	4	80	—	320	学士(看護)	1.10	平成24年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	医療福祉学科	4	50	3年次10	310	学士(医療福祉)	0.63	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	教育人間科学部						1.02			
	こども学科	4	50	3年次5	210	学士(児童)	0.82	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
	児童教育学科	4	—	—	—	学士(児童)	—	平成22年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	幼児保育学科	4	100	—	400	学士(児童)	0.98	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	学校教育学科	4	130	—	430	学士(学校教育)	1.15	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
	大学院									
	理工学研究科									
	バイオサイエンス専攻	2	15	—	30	修士(バイオサイエンス)	0.10	平成6年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	
環境マテリアル専攻	2	15	—	30	修士(環境マテリアル)	0.19	平成6年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
メディア情報システム専攻	2	15	—	30	修士(メディア情報システム)	0.03	平成17年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
アニマルサイエンス専攻	2	15	—	30	修士(アニマルサイエンス)	0.49	平成17年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
先端科学技術専攻	3	8	—	24	博士(先端科学技術)	0.12	平成8年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
医療科学研究科										
総合リハビリテーション学専攻	2	3	—	6	修士(リハビリテーション)	1.50	平成30年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
附属施設の概要	<p>名称：帝京山梨接骨院 住所：山梨県山梨市上神内川1150-1 平成22年11月完成 平成22年11月開設 平成24年4月実習開始 規模：147.19 m²</p> <p>名称：帝京千住接骨院 住所：東京都足立区千住元町33番1号 平成22年8月完成 平成23年3月開設 平成25年4月実習開始 規模：121.12 m²</p>								※平成31年度入学定員減(△30)	
<p>※平成29年度より名称変更(こども学部→教育人間科学部)</p> <p>※平成28年度より学生募集停止(児童教育学科)</p> <p>※平成31年度入学定員増(30)</p>										

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に属する学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護学研究法特論Ⅰ	1前	2			○			2	1					兼1	オムニバス
	看護学研究法特論Ⅱ	1前	2			○			2	1						オムニバス
	看護倫理特論	1・2後		2		○			2							オムニバス
	看護理論特論	1・2前		2		○			1						兼1	オムニバス
	生活習慣病治療学特論	1・2後		2		○										
	社会病理学特論	1・2後		2		○									兼1	オムニバス
	保健・医療統計学特論	1・2前		2		○									兼1	オムニバス
	看護教育学特論	1・2後		2		○			2	2					兼1	オムニバス
	健康心理学特論	1・2前		2		○									兼1	オムニバス
	生命倫理特論	1・2前		2		○									兼1	オムニバス
	看護システムマネジメント特論	1・2後		2		○			1	1					兼1	オムニバス
	フィジカルアセスメント特論	1・2前		2		○									兼1	オムニバス
	多職種連携特論	1・2後		2		○			2						兼3	オムニバス
小計（13科目）		—	4	22	0		—	8	4	0	0	0	0	兼9	—	
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	療養生活支援看護学総論	1前	2			○			3	1					オムニバス
		療養生活ケア特論	1・2前		2		○				1					
		療養生活ケア演習	1・2後		2			○			1					
		緩和ケア特論	1・2前		2		○			1						
		緩和ケア演習	1・2後		2			○		1						
		小児看護学特論	1・2前		2		○			1						
		小児看護学演習	1・2後		2			○		1						
		小計（8科目）		—	4	24	0		—	6	3	0	0	0	0	兼0
	地域生活支援看護学分野	地域生活支援看護学総論	1前	2			○			3	2					
精神保健看護学特論		1・2前		2		○			1							
精神保健看護学演習		1・2後		2			○		1							
地域看護学特論		1・2前		2		○			1							
地域看護学演習		1・2後		2			○		1							
母性看護学特論		1・2前		2		○			1							
母性看護学演習		1・2後		2			○		1							
小計（7科目）		—	4	24	0		—	6	3	0	0	0	0	兼0	—	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ	1通	4					○	8	4						
	看護学特別研究Ⅱ	2通	4					○	8	4						
	小計（2科目）		—	8	0	0		—	8	4	0	0	0	0	兼0	—
合計（29科目）			—	16	46	0		—	8	5	0	0	0	0	兼9	—
学位又は称号			修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
共通科目より必修4単位を含む10単位以上、専門教育科目より必修4単位を含む8単位以上、特別研究8単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本学大学院が行う修士論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			15週						
							1 時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究法特論Ⅰ	<p>看護の歴史の変遷をふまえ、看護研究の有効性や重要性を認識し、看護研究の意義について探求する。さらに、看護を研究するうえでの特殊性、倫理性を理解し、妥当で信頼性の高い研究のプロセスと、そこで必要とされる思考過程を学ぶ。エビデンスに基づいた看護実践を行うための看護研究について理解を深めるために系統的に文献を検索し、論文をクリティークできる力を養い、研究計画の立案を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 津田 茂子/7回) 看護研究のための基礎、概念、プロセスについて教授する。</p> <p>(5 新野 由子/2回) 研究における倫理的配慮について教授する。</p> <p>(12 糸井 和佳/6回) 系統的文献検索方法と論文クリティークの実際を教授する。</p>	オムニバス方式
共通科目	看護学研究法特論Ⅱ	<p>看護研究を計画するうえで、妥当な研究デザイン、研究枠組み、研究方法を選択できる能力を養うために、量的研究、質的研究、混合研究法の特徴、限界、方法論の具体について教授する。量的研究では、疫学研究、実験、準実験研究における対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを避けるための研究デザイン方法とともに、データの記述、要約、関連性・因果関係の検討、予測・分類を目的とした一連の統計手法について解説する。質的研究では内容分析、Grounded Theory Approach、現象学的アプローチによるデータ収集方法、分析方法について概説する。混合研究法では、混合研究法を用いる根拠、デザインの選択、量的・質的データの収集方法、データの統合について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 宮城 純子/4回) 主に実験研究、準実験研究を教授する。</p> <p>① 大西 奈保子/4回 Grounded Theory Approachを中心に、主に質的研究方法を教授する。</p> <p>② 伊藤 靖代/3回 主に疫学調査(症例対照研究、コホート研究、横断研究、生態学的研究)、量的研究について教授する。</p> <p>(12 糸井 和佳/4回) 研究デザイン、介入研究のサブストラクション、混合研究法を教授する。</p>	オムニバス方式
共通科目	看護倫理特論	<p>医療技術の発展・高度化は、それまでは助けられなかった命を助け、延命に貢献してきた。また生殖医療や臓器移植、遺伝子操作等の技術によって、人類に多大な恩恵をもたらした一方で、いのちや尊厳とは何かといった問題を我々につきつけた。さらにこうした治療の選択肢が増えた一方で、インフォームド・コンセントのあり方や患者の意思決定をどのように支えるべきなのかといったことが看護に求められるようになった。重い障がいや病気を抱える人々に対して、または終末期の治療継続や中止に伴う問題など医療の現場で遭遇するこれらの問題を取り上げ、議論を通じて倫理的な思考能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 伊藤 久美/7回) 子どもが自分の意思で治療や処置に参加できるためのインフォームド・コンセントやインフォームド・アセントの提供、限られた予後をどのように過ごすか意思決定への支援、障がいを持つ子どもへの支援など、子どもの最善の利益は何かを考え、子どもとその家族(きょうだい、祖父母も含めた)への支援のあり方を教授する。</p> <p>① 大西 奈保子/8回 ターミナルケアの実践において問題となる終末期鎮静やDNR、安楽死や尊厳死問題、高齢者の胃瘻の中止等を取り上げながら、患者に対するインフォームド・コンセントのあり方や患者の意思決定支援について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)			
共通科目	看護理論特論	<p>主要な看護理論の歴史的変遷と、看護理論や概念の看護実践・教育・研究の発展における重要性について講義する。看護理論の意義や定義、概念とその構成要素と特徴、その役割について理解を深め、理論の実践的な価値を見出し、その評価を試みる。学生が興味ある看護理論を選択し、理論の概要の理解と理論分析を行う。看護実践や看護現象にどのように活用できるかをプレゼンテーションし、参加者全員でディスカッションすることにより看護理論の在り方と発展の方向性について理解を深める。適応モデルまたはセルフケアモデルを概観することにより、看護の実践・教育・研究への適用について探求する。</p>	
共通科目	生活習慣病治療学特論	<p>生活習慣病とは、糖尿病・脂質異常症・高血圧・尿酸血症など生活習慣、すなわち食習慣、運動習慣、喫煙・飲酒などの嗜好品摂取習慣などが発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称であり、近年これらの疾患が増加し、社会的にも大きな問題になっている。これらの疾患は適切な生活習慣の形成ないし生活習慣の是正を実行することにより予防・治療が可能である。特に生活習慣病の予防は、世界的に医療費の削減のみならず、QOLの向上に大きく関与する。本講義ではこれらの現状を踏まえ、生活習慣病、特にその実践的な予防を念頭に置き、解説する。</p>	
共通科目	社会病理学特論	<p>社会病理とは、個人の精神病理のアナロジーとして作られた概念であり、社会構造レベルと、人間関係レベルとを往復し、多分に学際的意味合いを持ち合わせる。本講義では、様々な社会病理現象を理解することを通して、より深い人間洞察を目指す。特に、精神医学臨床の視点から、なるべく多くの具体例を示し、その病理のみならず、問題を解決するために、どのような介入を要するかも含め検討する。具体的には、薬物依存、児童虐待、カルト問題、自殺、ホロコーストなどである。</p>	
共通科目	保健・医療統計学特論	<p>だれもが容易に保健・医療に関するさまざまな統計情報にアクセスできる現在、その中から信頼できる情報を選択し、収集する力は極めて重要である。また、正しい統計手法を使って情報を要約する能力、その結果を一般にわかりやすく説明し、対策にいかす能力は看護職にとって必要不可欠である。</p> <p>本講義では、適切な情報の収集および統計学的手法を用いた課題解決能力の獲得を目指す。また、統計学的に得られた結果をわかりやすく説明する能力を身に付けることを目標とする。</p>	
共通科目	看護教育学特論	<p>看護学教育における教育制度、カリキュラム、教育方法、学習方法、評価、現行のカリキュラム内容を概観し、看護教育実践に必要な基礎的知識、技術、態度を修得することを目指す。さらに、文献レビューや事例学習を通して教育・学習理論を活用する能力や看護学教育の発展に向けたあり方について考察し、看護教育における実践能力を養う。また、キャリア発達の観点から、看護卒業教育、看護継続教育の現状と課題についても検討し、今後のあり方を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 小栗 祐子/5回) 本科目のねらい、ならびに看護教育学の意義・概念について学び、看護教育を取り巻く現状と課題について検討考察する。さらに、キャリア発達の観点から、看護卒業教育、看護継続教育のあり方やその本質を考察する。</p> <p>(4 志田 久美子/3回) 授業展開・教授活動のための基礎知識、講義・演習・実習における授業設計、看護卒業教育、看護継続教育への活用などを学び、教育実践の展開方法を教授する。さらに、看護基礎教育及び看護継続教育への活用を考察する。</p> <p>(9 梅津 靖江/5回) 看護教育に関する授業設計・授業分析・授業評価の展開方法を教授する。授業の内容を踏まえて、プレゼンテーション及び討議を行い、看護教育における授業について考察する。</p> <p>(10 佐藤 亜月子/2回) 看護基礎教育及び看護継続教育に関する論文を精読し、看護教育学の発展に向けた教育のあり方について討議を通して探求する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)			
共通科目	健康心理学特論	<p>超高齢社会における健康づくりは、単に平均寿命を伸ばすことではなく、自立した活動的で幸福な生活を営むことを可能にする健康寿命の延伸にある。健康心理学では、こころと身体の複雑な関係を社会という枠組みの中で全人的に理解することが求められている。そのため、より効率的な健康づくりの実践として、生物心理社会学的モデルに関連する高い理解力が重要視される。本講義では、よりよく生きるためのQOLやウェルビーイングの理念に加え、科学的根拠に基づいた健康支援の方略とその実践について教授する。</p>	
共通科目	生命倫理特論	<p>本講義では、臨床現場での具体的な事例を取り上げながら、看護の土台となる「生命の倫理学」について教授する。医療現場や専門分野における倫理的な問題や葛藤について、関係者間での倫理的調整を行うための基礎となる倫理に関する諸理論、倫理原則・倫理綱領について扱う。具体的には、延命措置をめぐる差し控えや中止、脳死臓器移植の意思決定等の事例を通して（パワーポイントや視覚教材を使用）、生命倫理学の見地から対応策を模索・検討する。</p>	
共通科目	看護システムマネジメント特論	<p>わが国の保健・医療システムの変遷を踏まえ、現行のシステムやサービス提供体制、そのサービスに対する国民の価値観の変化について概観しながら、効果的な看護システムマネジメント能力の修得を目指す。具体的には、看護を取り巻く制度や政策とその決定過程、看護政策をめぐる諸課題、組織の運営・管理に求められる理論や方法論、マンパワー開発などの検討を通し、看護政策や組織マネジメントに関する課題を整理し、質の高い看護を提供するための能力の獲得につなげる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 新野 由子/6回) 日本の医療制度の全体像や医療政策形成過程、医療供給制度の構造と改革の方向性、看護政策の意義などについて教授する。</p> <p>(13 大釜 信政/9回) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割に焦点を合わせながら、そのケアに影響を及ぼす法令や政策、費用対効果の高い看護を提供するための組織のあり方などについて教授する。</p>	オムニバス方式
共通科目	フィジカルアセスメント特論	<p>日本では、社会保障にまつわる緊迫した財政状況から、在院日数の短縮に伴って居宅医療が拡大してきている。そのような背景のもとで、看護師には、療養生活におけるケアも踏まえた自律したケア実践力が求められている。そして、その実践に向けて、高度なアセスメント力も必要になる。この授業では、解剖・生理学、病態学、臨床薬理学、臨床検査の内容も踏まえ、呼吸器、循環器、消化器・代謝系、脳神経・運動系を中心に、的確な身体査定のための技能を修得する。そして、あくまで看護学の観点に基づいて、その査定から導き出される療養生活を支えるためのケアの実際や他職種との連携を必要とする場面について考える。</p>	
共通科目	多職種連携特論	<p>多職種連携が必要となってきた歴史的背景、多職種連携の概念、協働で行うことの意義さらに対人関係、組織や制度上の課題などから連携の本質を教授する。加えて地域保健医療福祉等の場が異なる多職種・多機関連携の実践事例から、連携・協働の特徴を把握するとともに、「個人」「チーム」「組織」のそれぞれのもつ課題に対応できる実践力向上を目指す。さらに、専門職連携教育（IPE）、専門職連携協働（IPW）の定義と意義、役割について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 吉岡 幸子/5回) 多職種連携の意義および課題、IPE・IPWの定義と意義を教授し、さらに 看護職の連携の実際から、看護職としての連携の本質を探究する。</p> <p>(4 志田 久美子/4回) 多職種連携の歴史的背景、概念を教授する。</p> <p>(15 山田 健/2回) 多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探究する。(社会福祉士の立場から)</p> <p>(17 宮下 智/2回) 多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探究する。(理学療法士の立場から)</p> <p>(19 坂野 憲司/2回) 多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探究する。(精神保健福祉士の立場から)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)			
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	療養生活支援看護学総論	<p>超高齢社会、少子・多死社会において、病状の急性増悪・回復・安定、さらには安寧な死にむかう健康状態であっても、それぞれの療養生活の場で質の高いケアが受けられるために看護実践上の課題を見出し解決するために必要な知識を幅広く得ることが目的である。療養生活をおくる人々を取り巻く医療情勢や疾病構造、健康課題、または療養生活をおくる人々を身体的・心理的に理解しケアを実践するのに必要な病態や理論について概説しディスカッションやプレゼンテーションを通して、療養の場の管理運営や環境調整、及び療養生活をおくる人々への支援に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 津田 茂子/2回) 小児期にある子どもの健康と生活について歴史的な観点から考察し、現代の子どもを取り巻く社会の状況における心身の健康問題について検討する。これらをふまえて、より子どもたちの成長と発達を促す支援について理解を深める。</p> <p>(6 伊藤 久美/3回) 子どもの発達段階に合わせた療養環境の提供、子どもの人権に配慮した治療や処置・検査・ケア等のあり方、子どもの入院や健康障害により影響を受ける家族への支援などを検討する。</p> <p>(① 大西 奈保子/5回) 多死社会を鑑み、がん患者の終末期、高齢者のEnd-of-Life-careの現状と課題について検討し、終末期医療の限界と可能性を探究する。</p> <p>(12 糸井 和佳/5回) 高齢化に伴う国内外の高齢者とその家族がおかれている現状と在宅ケア・施設ケアの場において生起している諸問題について概説する。また、高齢者の意思決定支援、療養生活における質の高いケアについて検討する。</p>
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	療養生活ケア特論	<p>高齢者が看護を受ける場合は、病院、施設、在宅、地域と広がりを見せており、また高齢者の健康レベルも健康増進から、慢性疾患を有しながらの療養生活、急性期医療が必要となるレベルと様々である。高齢者とその家族の健康生活をアセスメントし、療養生活におけるQOL向上のための専門的な看護ケアの立案、実践、評価するための理論と方法を学ぶ。特に在宅におけるケアの方法論を探索し、高齢者の尊厳と自律を尊重した新たなケアの創出やサポート体制の構築を学修する。</p>
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	療養生活ケア演習	<p>療養生活ケア特論で得た知識をもとに、療養生活ケアに関する研究を自律して行うことができるようになるために、文献の収集と批判的検討を行う。また高齢者ケアが行われている場(病院、施設、在宅、地域)に赴き、ケアを必要とする高齢者のアセスメントをもとに、療養生活におけるQOL向上を目指した看護計画立案を行い、援助方法を探索する。</p>
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	緩和ケア特論	<p>緩和ケアで必要とされる考え方、緩和ケアの発展の歴史、緩和ケアに関わる政策の概要について理解を深め、緩和ケアを受けるがん患者が体験している苦痛について、身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペインとして全人的に捉え、QOLの向上を目指した看護介入方法について学修する。また、多死社会を見据えてがん患者だけではなく、高齢者の死についても理解を深め、その人が希望する場所で最期を迎えられるように病院や緩和ケア病棟だけではなく在宅ホスピスや高齢者施設での看取りや、大切な人を看取った遺族へのグリーフケアについても学修する。</p>
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	緩和ケア演習	<p>緩和ケア特論で得た知識をもとに、緩和ケアにおける倫理的諸問題、患者やその家族の抱える全人的苦痛に対する緩和ケアの知識・技術、患者やその家族をケアする提供者の心理的負担などの問題について、国内外の文献を討議材料として考察する。また、がん患者と非がん患者の予後やそれに伴う諸問題、看取る場の違い、看取り後の遺族の悲嘆の問題などについても実態を把握し、緩和ケアの広がりについて現状と課題を検討する。それらの中から自己の研究課題を明確にし、それに沿ったテーマの研究動向について国内外の文献レビューを行う。プレゼンテーションおよびディスカッションを通じて研究課題の意義を明確にし、研究方法や分析方法について吟味する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)				
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	小児看護学特論	小児看護学は15歳までのいわゆる小児期にある子どもと家族を対象とするが、小児期から生じた問題は青年期、成人期などライフサイクルにおいて影響を及ぼしキャリアオーバーな人たちも対象とする。主に小児期に生じた原因・誘因によって発達や生活に困難さをもちながら生活している人々の生活の質を向上させるための方略を身体的・心理的、社会的な観点から理論的に考察を深める。さらに、子どもたちのさまざまな発達の状況と健康状態からより発達を促進するための諸理論を学び、より専門的な小児看護の実践について探求する。	
専門教育科目	療養生活支援看護学分野	小児看護学演習	小児看護学に関連した研究の現況と動向を知り、小児看護学研究の考察を深めるために、文献クリティークを行う。小児看護学研究に関連した文献から、研究の背景や内容の理解を深めることで、自己の研究課題を明確にし、研究計画を組み立て、研究計画書の作成につなげる。	
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	地域生活支援看護学総論	<p>本講義では、ヘルス・プロモーション活動の概念理解を深化し、地域包括ケアシステム構築の必要性やその具体的な看護実践上の課題を見いだすための知識を身につけることを目的としている。人々の健康問題を解決してゆくための行動変容に必要な理論を考える一方で、個人的問題の側面だけではなく、社会的な問題として捉え概説する。主に家族やコミュニティの希薄さからくる妊産婦の孤立、社会病理により派生した触法精神障害者、虐待、セルフ・ネグレクト、孤立死など、多様で深刻な問題をもとに、グループディスカッションを通じて、様々な健康レベルにある個人・家族のセルフケア能力を向上する支援、生活を支える環境づくり、及び多職種多機関連携など、看護の果たす可能性について探求していく。</p> <p>以上のように、医療の高度化・複雑化に伴い、看護学において求められている広い視野から他覚的に事象を捉える学識及び多様かつ柔軟的に活躍し得る高度の研究能力を修得するため、地域生活支援分野に関連する教員がオムニバス形式で、各人の専門とする分野に基づき教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 吉岡 幸子/5回) ヘルスプロモーションの概念とその意義を踏まえ、地域の文化や特性に合わせた健康課題について概説する。また虐待問題、セルフ・ネグレクト(自己放任)、孤立死、飲酒による健康被害や家族支援など、多職種多機関連携を通して住民や地域における多様化・深刻化した健康課題とその支援についても概説する。</p> <p>(5 新野 由子/2回) 核家族・少子化・情報過多の時代に、健やかな妊娠期・子育て期を過ごすための方策を探り、それを支える社会資源について概説する。</p> <p>(7 宮城 純子/3回) 近年の精神保健福祉の動向を押さえ、精神看護に求められる知識と技術を概説する。さらに昨今社会問題となっている触法精神障害者やその家族支援についても国内外の動向を踏まえ、概説する。</p> <p>(11 清野 純子/2回) 生活習慣に関する行動変容に対して、QOL向上のために必要な要素であるストレス緩和、レジリエンス、セルフエフィカシーなどを踏まえ、概説する。</p> <p>(13 大釜 信政/3回) 日本の社会構造の変化に伴う医療提供体制や看護師に求められる役割について概説し、地域包括ケアシステム構築の必要性および新たな看護のあり方を考察する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	精神保健看護学特論	近年、アルコールや薬物依存症者の増加、DV、自殺などの社会病理がみられ早急な対応が求められている。さらに精神疾患をもつ人に対する看護では看護職者に対して、地域移行や医療観察法に関連する触法精神障害者の看護ケア等について幅広い知識と応用力が求められている。この講義では、精神保健医療福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度について学び、今日の精神保健に関連した問題や課題について概説し、今後の展望や医療職の役割について探求する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（医療科学研究科 看護学専攻 修士課程）			
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	精神保健看護学演習	精神保健医療福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度動向について学ぶ。さらに精神保健や精神医療に関連する研究文献の批判的考察や理論的検討を通して、精神保健に関連する諸問題や地域で生活する精神障害者の家族や倫理的問題について研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	地域看護学特論	住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるための個別支援やコミュニティづくりを看護学の立場から、地域看護特論として教授する。包括的な視点から問題解決に向けた保健活動を展開するための各種理論やモデルを学び、ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチの方法を対象の特性（母子・精神・高齢者）、集団の特性（家族・自助グループ）、支援の場（在宅、地域包括支援センター）に応じて教授する。これらをもとに事例や既存の研究を分析し、地域における看護職の活動について、今後の展望まで含めて探求する。
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	地域看護学演習	本演習は、地域看護に関連する研究文献を批判的考察による理論的検討を通して、地域看護分野の改善を図るためのケアシステム開発や地域の健康課題に対する解決方策等について、研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	母性看護学特論	現代社会に生きる、思春期、性成熟期、更年期と生涯を通じた女性の健康、母性・父性（親性）の発達過程とその支援する看護の役割、周産期における母性（妊産褥婦）とその家族への支援、地域のサポート体制の構築を教授する。 さらに、昨今の核家族化やIT化社会における生活様式の変化を踏まえ母性看護学分野における看護師の役割、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にするための学修を深める。
専門教育科目	地域生活支援看護学分野	母性看護学演習	本演習は、母性看護に関連する研究文献を批判的考察による理論的検討を通して、母性看護分野の改善を図るためのケアシステム開発や健康課題に対する解決方策等について、研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。

授 業 科 目 の 概 要		
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)		
特別研究	看護学特別研究 I	<p>看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。</p> <p>特別研究 I においては、研究テーマの立案を行った後、研究テーマに沿って先行研究について文献検討等を十分に行い、観察・調査・実験等の手法を用いてデータを収集し、論文作成の過程を実施する能力を修得する。</p> <p>(1 吉岡 幸子) 高齢者虐待やセルフ・ネグレクト、依存症関連問題に対して、地域ケアシステムの視点から、要因分析、対応方法、予防などについて研究指導を行う。</p> <p>(2 津田 茂子) 小児看護学領域の研究課題について、修士論文を作成するプロセスを指導する。健康障害をもちながら、社会生活を営む小児と家族の適応を促進し、セルフケアを維持しより高い生活の質を保証していくための研究について指導を行う。</p> <p>(3 小葉 祐子) 看護基礎教育において、様々な健康レベルにある人の栄養管理、清潔ケアに必要な看護技術教育の方法に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 志田 久美子) ターミナルケアの実践では、看護師の死生観が、患者のスピリチュアルペインへの気づきなどケアの質を左右する。そのため看護師がターミナルケアの実践をし続けられるための看護師へのケア、特に看護師へのスピリチュアルケアについて研究指導を行う。</p> <p>(5 新野 由子) 思春期、性成熟期、更年期の女性の健康に関する問題やケアのあり方、母子保健政策・施策に関する研究など、問題点や課題に関して、解決に繋げていくことを目指し研究指導を行う。</p> <p>(6 伊藤 久美) 終末期にある子どものEnd-of-Life Careを中心に、子ども自身への説明や意思決定に参加することについて、親だけでなくきょうだい、祖父母も含めた家族へのサポート方法、そして子どものEnd-of-Life Careに携わる医療者へのサポートシステムの構築などの研究指導を行う。</p> <p>(7 宮城 純子) 精神障害者の社会復帰や地域生活支援、司法精神医療に関連する触精神障害者の諸問題について、家族や倫理的な問題を含めた望ましい支援の在り方について研究指導を行う。</p> <p>(① 大西 奈保子) ターミナル期にある患者・家族への緩和ケアについて、トータルペインや終末期に起こりうる倫理的な問題、グリーフケア、さらに施設内ケアのみならず、在宅ホスピスケアについて研究指導を行う。</p> <p>(11 清野 純子) 療養生活を送る患者は様々なストレスを抱えている。そのため、基本的なストレスの概念を学ぶとともに、患者が疾病を受け入れ病氣と共に生きる力(レジリエンス)を高めていくための基本的概念やその方策について研究指導を行う。</p> <p>(12 糸井 和佳) 高齢者と家族の健康と生活を支える老年看護ならびに、高齢者が生きてきた生活史を生かしたパーソンセンタードケア、世代間交流看護支援について研究指導を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(医療科学研究科 看護学専攻 修士課程)		
特別研究	看護学特別研究Ⅱ	<p>看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。</p> <p>特別研究Ⅱにおいては、各自の研究活動を通じて、収集された研究データを分析し、関連学会の発表や学術論文として公表する能力を修得する。</p> <p>(1 吉岡 幸子) 高齢者虐待やセルフ・ネグレクト、依存症関連問題に対して、地域ケアシステムの視点から、要因分析、対応方法、予防などについて研究指導を行う。</p> <p>(2 津田 茂子) 小児看護学領域の研究課題について、修士論文を作成するプロセスを指導する。健康障害をもちながら、社会生活を営む小児と家族の適応を促進し、セルフケアを維持しより高い生活の質を保証していくための研究について指導を行う。</p> <p>(3 小栗 祐子) 看護基礎教育において、様々な健康レベルにある人の栄養管理、清潔ケアに必要な看護技術教育の方法に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 志田 久美子) ターミナルケアの実践では、看護師の死生観が、患者のスピリチュアルペインへの気づきなどケアの質を左右する。そのため看護師がターミナルケアの実践をし続けられるための看護師へのケア、特に看護師へのスピリチュアルケアについて研究指導を行う。</p> <p>(5 新野 由子) 思春期、性成熟期、更年期の女性の健康に関する問題やケアのあり方、母子保健政策・施策に関する研究など、問題点や課題に関して、解決に繋げていくことを目指し研究指導を行う。</p> <p>(6 伊藤 久美) 終末期にある子どものEnd-of-Life Careを中心に、子ども自身への説明や意思決定に参加することについて、親だけでなくきょうだい、祖父母も含めた家族へのサポート方法、そして子どものEnd-of-Life Careに携わる医療者へのサポートシステムの構築などの研究指導を行う。</p> <p>(7 宮城 純子) 精神障害者の社会復帰や地域生活支援、司法精神医療に関連する触法精神障害者の諸問題について、家族や倫理的な問題を含めた望ましい支援の在り方について研究指導を行う。</p> <p>(⑩ 大西 奈保子) ターミナル期にある患者・家族への緩和ケアについて、トータルペインや終末期に起こりうる倫理的な問題、グリーフケア、さらに施設内ケアのみならず、在宅ホスピスケアについて研究指導を行う。</p> <p>(11 清野 純子) 療養生活を送る患者は様々なストレスを抱えている。そのため、基本的なストレスの概念を学ぶとともに、患者が疾病を受け入れ病気と共に生きる力（レジリエンス）を高めていくための基本的概念やその方策について研究指導を行う。</p> <p>(12 糸井 和佳) 高齢者と家族の健康と生活を支える老年看護ならびに、高齢者が生きてきた生活史を生かしたパーソンセンタードケア、世代間交流看護支援について研究指導を行う。</p>

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人帝京科学大学 設置認可等に関する組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
帝京科学大学				→	帝京科学大学				
生命環境学部 生命科学科	100	3年次	10	420	生命環境学部 生命科学科	100	3年次	10	420
アニマルサイエンス学科	290	3年次	5	1170	アニマルサイエンス学科	290	3年次	5	1170
自然環境学科	100	3年次	5	410	自然環境学科	100	3年次	5	410
医療科学部 理学療法学科	80			320	医療科学部 理学療法学科	80			320
作業療法学科	40			160	作業療法学科	40			160
柔道整復学科	30			120	柔道整復学科	30			120
東京理学療法学科	80			320	東京理学療法学科	80			320
東京柔道整復学科	90			360	東京柔道整復学科	90			360
看護学科	80			320	看護学科	80			320
医療福祉学科	50	3年次	10	220	医療福祉学科	50	3年次	10	220
教育人間科学部 こども学科	50	3年次	5	210	教育人間科学部 こども学科	50	3年次	5	210
幼児保育学科	100			400	幼児保育学科	100			400
学校教育学科	130			520	学校教育学科	130			520
小学校コース	40			160	小学校コース	40			160
中高理科コース	20			80	中高理科コース	20			80
中高保健体育コース	40			160	中高保健体育コース	40			160
国際英語コース	30			120	国際英語コース	30			120
計	1220		35	4950	計	1220		35	4950
帝京科学大学大学院				→	帝京科学大学大学院				
理工学研究科 ハイオサイエンス専攻(M)	15			30	理工学研究科 ハイオサイエンス専攻(M)	15			30
環境マテリアル専攻(M)	15			30	環境マテリアル専攻(M)	15			30
メディア情報システム専攻(M)	15			30	メディア情報システム専攻(M)	15			30
アニマルサイエンス専攻(M)	15			30	アニマルサイエンス専攻(M)	15			30
先端科学技術専攻(D)	8			24	先端科学技術専攻(D)	8			24
医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(M)	3			6	医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(M)	3			6
					看護学専攻(M)	3			6 専攻の設置(認可申請)
					柔道整復学健康ケア専攻(M)	3			6 専攻の設置(認可申請)
					総合リハビリテーション学専攻(D)	2			6 専攻の設置(認可申請)
計	71			150	計	79			168